



# 2022年第3四半期 決算説明会

株式会社ブリヂストン

2022年11月10日

執行役 専務 Global CFO

吉松 加雄

**BRIDGESTONE**  
*Solutions for your journey*

1. 2022年第3四半期累計 連結業績 …… 3
2. 2022年通期 連結業績予想 …… 14

# 1. 2022年第3四半期累計 連結業績

# 2022年第3四半期累計 連結業績

(単位：億円)

	2021年 第3四半期累計実績						2022年 <sup>※</sup> 第3四半期 累計実績	前年比増減 (%)
	組替前 (昨年開示数値)	組替後 <sup>※</sup>	上期累計	前年比増減 (%)	第3四半期	前年比増減 (%)		
売上収益	24,018	23,177	18,863	+25	10,906	+35	29,769	+28
調整後営業利益	2,779	2,886	2,066	+13	1,356	+28	3,422	+19
利益率	11.6%	12.5%	11.0%	△ 1.1pp	12.4%	△ 0.7pp	11.5%	△ 1.0pp
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	4,228	4,228	929	△ 74	958	+36	1,887	△ 55
-うち継続事業	1,929	2,046	1,176	△ 10	996	+36	2,172	+6
-うち非継続事業	2,299	2,183	△ 247	-	△ 38	-	△ 284	-

※ 2021年第3四半期では米国建築資材事業を「非継続事業」に分類しておりましたが、2021年12月発表の事業譲渡の決定に伴い、2021年第4四半期より新たに防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。これに伴い、売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額を表示しております。

# 2022年第3四半期累計 業績概要

## 第3四半期累計 ハイライト

- 上期に発生した様々な経営リスク（ロシアビジネス停止、中国ロックダウン、米国子会社におけるサイバー攻撃など）に加え、下期には欧州の景気後退が顕在化、北米でも経済の先行き不透明感が高まる中、プレミアム領域への集中をより一層強化しながら、PS/LT, TB, ORの全ての財で前年以上の販売を達成。
- 売値・Mixの改善・販売数量増加によるプラス影響で、原材料高騰・インフレ(エネルギー費、労務費、海上運賃等) によるコスト面のマイナス影響をほぼ全てカバー。さらに、生産現場改善などの「経費・コスト構造改革」が収益性を下支えし、第3四半期は12%を上回る調整後営業利益率を達成。
- グローバル生産体制を基盤としたフレキシブルな供給マネジメントに加え、断トツ商品力が大きく貢献し、PSR-HRD (18インチ以上)やORなどのプレミアム領域での販売シェアが伸長。

## 第3四半期累計 財別販売概況

### PS/LT (乗用車/ライトトラック用)

- 高インチタイヤを中心に販売拡大 – 1~3Q累計 PSR-HRD (18インチ以上) 市販用販売：対前年114%
- 市販用：3Qに入りやや需要の減速感はあるも、相対的に需要の強いプレミアムタイヤ(HRD)における販売シェアが引き続き伸長。
- 新車用：自動車各社の車両生産状況が改善し、第3四半期のタイヤ販売は対前年で大幅な増加に転じる。

### TB (トラック・バス用)

- 市販用：3Qに入り欧州需要に陰りが見られる一方、北米需要は依然強い。日本は値上げ前駆け込み影響で前年比大幅販売増。
- 新車用：2Q以降、半導体影響からの需要回復の動きが継続。特に欧州での販売が好調に推移。

### OR (鉱山用、建設用)

- 鉱山用：ロシア向け輸出停止による販売減を他市場でカバーし、第3四半期累計でグローバルでの販売シェア伸長。
- 建設用：市販用/新車用とも堅調に推移。新車用はサプライチェーン混乱による建機減産影響を一部受けていたが、3Qは改善傾向。

# 2022年第3四半期累計 事業環境 / タイヤ需要



## 為替

- USD、EURともに前年比円安で推移。

第3四半期累計：1USD=129円、1EUR=136円（3Q：1USD=138円、1EUR=139円）

（参考）21年第3四半期累計 1USD=109円、1EUR=130円



## 原材料 / エネルギー

- 原材料：天然ゴムは3Qに入り大きく下落。原油はピークからは低下も、依然前年を大きく上回る水準。
- エネルギー：原油・天然ガス価格高止まりの中、工場におけるエネルギー費が前年比大きく上昇。



## タイヤ需要 (PSR/TBR)

- 新車用：自動車各社の生産が回復に転じる中、3Qに入りタイヤ需要にも回復基調が見られる。
- 市販用：欧米の需要拡大には減速が見られるものの、北米のTB需要の際立った強さが継続。PS/LTでは、プレミアムタイヤ需要が着実に拡大している。

### 相場動向（平均価格）推移

※1 Source: Singapore Commodity Exchange Limited 期近市況価格

	2021年				2022年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
天然ゴム (TSR20)※1 (¢/kg)	167	165	166	173	177	165	146
天然ゴム (RSS#3)※1 (¢/kg)	234	221	185	193	210	211	163
原油 (WTI) (\$/bbl)	58	66	71	77	95	109	91

### 2022年1-9月 タイヤ需要（本数 対前年/対19年）

当社推定値	PS/LT (乗用車/ライトトラック用)				TB (トラック・バス用)			
	OE(新車用)		REP(市販用)		OE(新車用)		REP(市販用)	
	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年
日本	95%	76%	112%	98%	89%	92%	122%	99%
北米	111%	87%	98%	104%	109%	91%	116%	144%
欧州	101%	71%	101%	99%	103%	97%	103%	109%

# 2022年第3四半期累計 タイヤ販売本数：対前年 / 対19年



## PSR/LTR

	対前年	対19年
グローバル	104%	92%
<b>OE (新車用)</b>		
グローバル	103%	81%
日本	99%	77%
北米	104%	80%
欧州	102%	77%
中国・アジア・大洋州	102%	81%

## REP (市販用)

グローバル	105%	98%
日本	111%	97%
北米	103%	98%
欧州	107%	99%
中国・アジア・大洋州	100%	86%



## TBR

	対前年	対19年
グローバル	103%	98%
<b>OE (新車用)</b>		
グローバル	105%	92%
日本	92%	97%
北米	101%	76%
欧州	119%	109%
中国・アジア・大洋州	107%	120%

## REP (市販用)

グローバル	102%	101%
日本	121%	101%
北米	104%	119%
欧州	107%	105%
中国・アジア・大洋州	91%	83%



## ORR

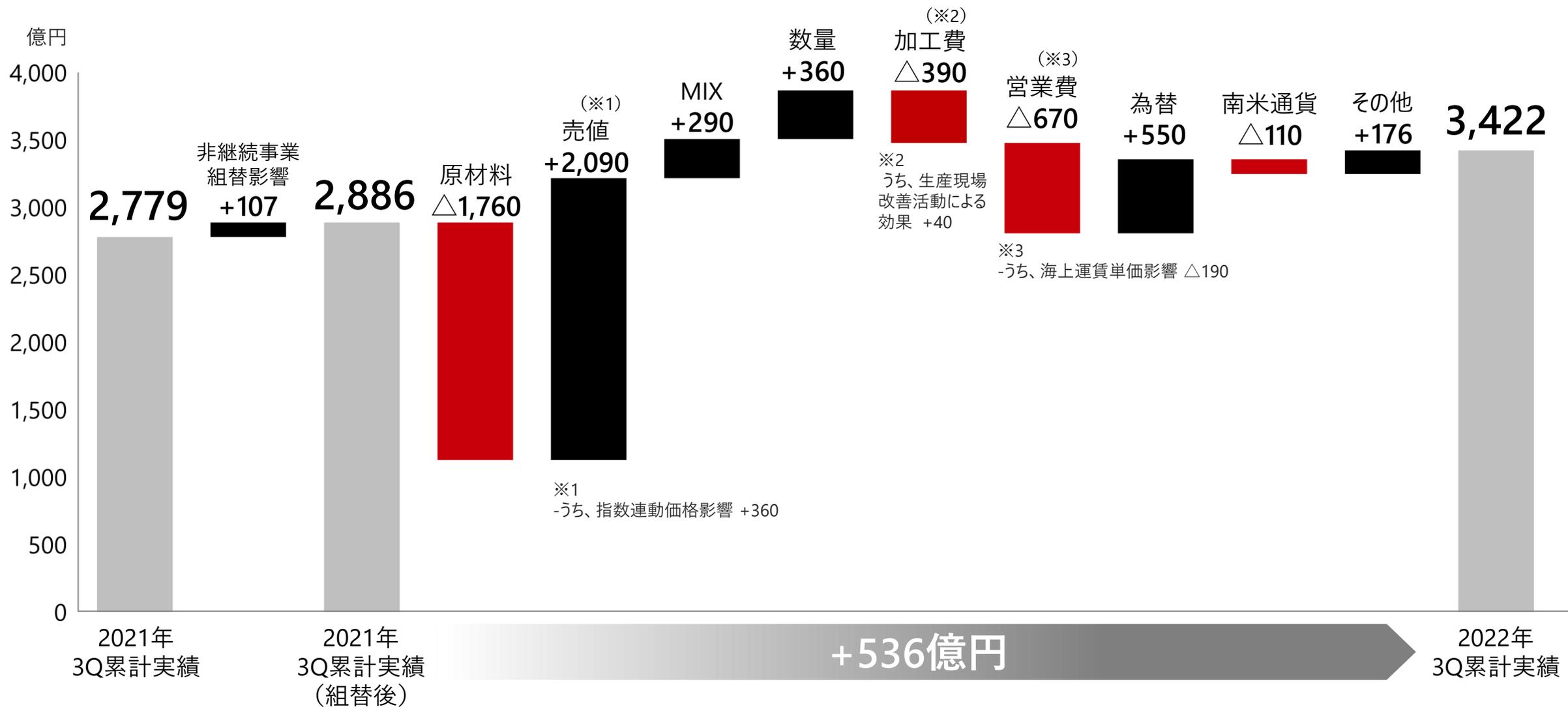
	対前年	対19年
超大型(REPのみ)	108%	102%
大型	111%	115%
OE	136%	150%
REP	102%	104%
中小型	105%	107%
OE	99%	105%
REP	110%	107%



## PSR 18インチ以上

グローバル	110%	116%
REP	114%	142%

# 2022年第3四半期累計 調整後営業利益増減要因：前年差



# 2022年第3四半期累計 セグメント別業績

(単位：億円)

	2021年 第3四半期累計実績	※1	2022年 第3四半期累計実績	※1	前年比増減 (%)
日本	売上収益	5,991	7,281		+22
	調整後営業利益	656	880		+34
	利益率	10.9%	12.1%		+1.1pp
米州	売上収益	10,468	14,378		+37
	調整後営業利益	1,474	1,884		+28
	利益率	14.1%	13.1%		△ 1.0pp
欧州・ロシア・中近東・ インド・アフリカ	売上収益	5,075	6,451		+27
	調整後営業利益	324	585		+81
	利益率	6.4%	9.1%		+2.7pp
中国・アジア・大洋州	売上収益	2,762	3,380		+22
	調整後営業利益	321	272		△ 15
	利益率	11.6%	8.0%		△ 3.6pp
セグメント間消去 他 ※2	売上収益	△ 1,119	△ 1,720		-
	調整後営業利益	112	△ 199		-

※1 P.4に記載の通り、米国建築資材事業、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類し、組み替えた金額を表示しております。

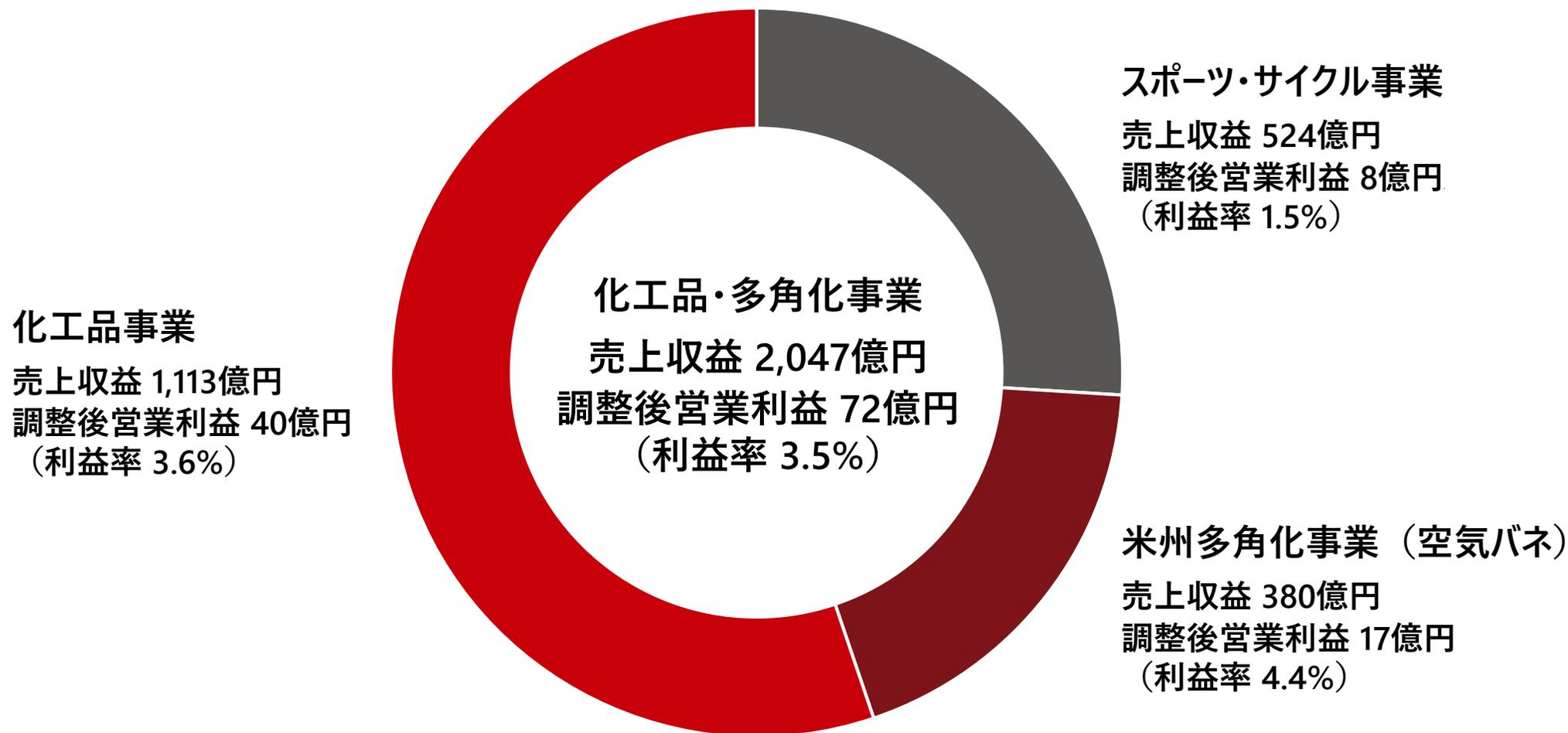
※2 各セグメント間の一般タイヤ取引における取引高消去、日本本社の輸出損益、棚卸未実現損益などを含みます。

# 2022年第3四半期累計 タイヤ事業 財別業績

(単位：億円)  
前年比増減  
(%)

		2021年 第3四半期累計実績	2022年 第3四半期累計実績	
 <b>PS/LT</b> <small>※小売・クレジットカード事業を含む</small>	売上収益	12,155	16,050	+32
	調整後営業利益	1,711	1,936	+13
	利益率	14.1%	12.1%	△ 2.0pp
 <b>TB</b> <small>※リトレッド事業を含む</small>	売上収益	5,803	7,569	+30
	調整後営業利益	696	787	+13
	利益率	12.0%	10.4%	△ 1.6pp
 <b>Specialties (OR/AC/AG/MC)</b>	売上収益	2,937	4,016	+37
	調整後営業利益	555	938	+69
	利益率	18.9%	23.4%	+4.5pp
化工品・多角化事業、内製事業、 棚卸未実現損益 他	売上収益	2,281	2,133	△ 6
	調整後営業利益	△ 76	△ 239	-

## 2022年第3四半期累計 化工品・多角化事業 事業別業績 (継続事業ベース)



※ 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。  
売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額となります。

# 2022年第3四半期 財政状態計算書及びキャッシュ・フローハイライト

(単位：億円)

	2021年期末実績	2022年第3四半期期末実績	対前年末
資産合計	45,749	51,314	+5,565
資本合計	26,754	30,920	+4,166
親会社所有者帰属持分比率	57.5%	59.3%	+1.8pp
有利子負債〈ネット〉	236	2,744	+2,508
期末為替レート	USDル 115円	145円	+30円
	ユーロ 131円	142円	+11円
	2021年第3四半期累計実績	2022年第3四半期累計実績	対前年同期
営業CF	1,746	1,249	△ 497
投資CF	1,830	△ 2,773	△ 4,604
フリーCF	3,577	△ 1,524	△ 5,101
設備投資	1,395	1,629	+234
減価償却費及び償却費	1,820	2,095	+276

# 2022年第3四半期累計「調整項目」及び「非継続事業からの四半期損失」について

## 2022年 第3四半期累計実績

(単位：億円)

売上収益	29,769
調整後営業利益	3,422
調整項目	350
営業利益	3,072
税引前四半期利益	3,043
継続事業からの四半期利益 ※	2,172
非継続事業からの四半期損失 ※	△ 284
親会社の所有者に帰属する四半期利益	1,887

※「親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失」を記載しております。

## 1) 調整項目

(単位：億円)

調整項目	350	主な内容
ロシア事業関連損失	175	固定資産減損、 棚卸資産評価減
ブリヂストンサイクル（株）リコール費用	154	
その他	21	

## 2) 非継続事業からの四半期損失

- 事業譲渡の決定に伴い、米国建築資材事業、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。
- これにより、下記①、②の合計284億円を「非継続事業からの四半期損失」として計上しました。

① 事業譲渡に係る損失

② 2022年第3四半期累計で同事業において計上した四半期損失

## 2. 2022年通期 連結業績予想

## 2022年通期 連結業績予想（今回修正後）

（単位：億円）

	2021年 通期実績	2022年 通期予想 ('22/8/10発表)	2022年 通期予想 (今回修正後)	前回予想比 増減 (%)	前年比 増減 (%)
売上収益	32,461	39,500	40,500	+3	+25
調整後営業利益	3,943	4,500	4,700	+4	+19
利益率	12.1%	11.4%	11.6%	+0.2pp	△ 0.5pp
親会社の所有者に 帰属する当期利益	3,940	2,500	2,600	+4	△ 34
-うち継続事業	3,079	2,800	2,950	+5	△ 4
-うち非継続事業	862	△ 300	△ 350	-	-
ROIC	9.0%	9.3%	9.4%	+0.2pp	+0.4pp
ROE	12.9%	10.8%	10.5%	△ 0.3pp	△ 2.4pp
1株当たり配当金	170円	170円	170円		

※ 売上収益、調整後営業利益、ROIC及びROEは、「継続事業」のみの金額・数値を表示しております。

# 2022年通期 事業環境見通し



## 為替

- 4Q為替前提 : 1USD = 135円、1EUR = 135円
- 通期為替前提 : 1USD = 130円、1EUR = 136円  
(参考) 8月計画 通期為替前提: 1USD = 124円、1EUR = 131円



## 原材料 / エネルギー

- 原材料: 天然ゴムは4Qに再び緩やかに上昇、原油は引き続き高値圏での推移を想定。
- エネルギー: 工場におけるエネルギー費上昇は4Qも継続することを想定。



## タイヤ需要 (PSR/TBR)

- 新車用: 半導体不足改善に伴い米欧中心に需要回復を見込む。19年対比では依然低水準に留まる。
- 市販用: PS/LTは8月の需要予想から下振れるも、TBでは北米需要の堅調な推移を見込む。プレミアムタイヤ需要は引き続き相対的に強く推移する見通し。

### 為替動向 通期見通し

	2021年	2022年		
		上期	3Q	4Q
通期				
USD	110	123	138	135
ユーロ	130	134	139	135

### 通期 タイヤ需要見通し (本数 対前年/対19年)

当社推定値	PS/LT (乗用車/ライトトラック用)				TB (トラック・バス用)			
	OE(新車用)		REP(市販用)		OE(新車用)		REP(市販用)	
	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年
日本	102%	82%	103%	99%	92%	94%	102%	98%
北米	111%	90%	100%	104%	111%	95%	112%	137%
欧州	106%	75%	100%	101%	104%	103%	99%	105%
アジア※	109%	106%	88%	79%	64%	68%	84%	72%

※ タイ・インドネシア・中国の3ヶ国計

# 2022年通期 タイヤ販売本数予想：対前年



## PSR/LTR

	対前年
グローバル	101~105%
<b>OE (新車用)</b>	
グローバル	101~105%
日本	101~105%
北米	106~110%
欧州	101~105%
中国・アジア・大洋州	100%

## REP (市販用)

グローバル	100%
日本	101~105%
北米	100%
欧州	100%
中国・アジア・大洋州	100%



## TBR

	対前年
グローバル	101~105%
<b>OE (新車用)</b>	
グローバル	101~105%
日本	95~99%
北米	100%
欧州	111~115%
中国・アジア・大洋州	106~110%

## REP (市販用)

グローバル	100%
日本	101~105%
北米	106~110%
欧州	101~105%
中国・アジア・大洋州	95~99%



## ORR

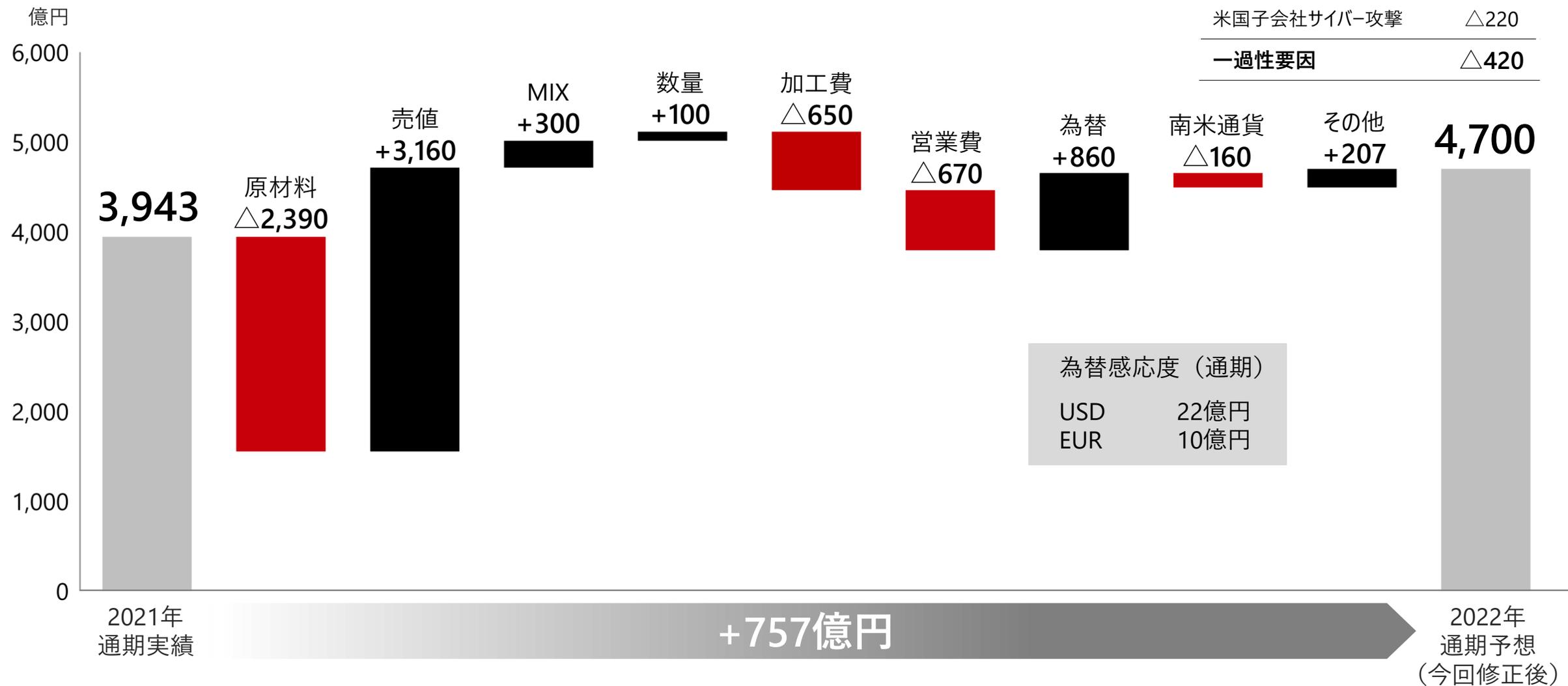
		対前年
超大型(REPのみ)		106~110%
大型		106~110%
	OE	131~135%
	REP	100%
中小型		101~105%
	OE	101~105%
	REP	106~110%



## PSR 18インチ以上

グローバル	111~115%
REP	111~115%

# 2022年通期 調整後営業利益増減要因予想：前年差



## 2022年通期 セグメント別業績予想（今回修正後）

（単位：億円）

		2021年 通期実績	2022年 通期予想（今回修正後）	前年比増減 （%）
日本	売上収益	8,730	10,200	+17
	調整後営業利益	1,170	1,280	+9
	利益率	13.4%	12.5%	△ 0.8pp
米州	売上収益	14,546	19,300	+33
	調整後営業利益	1,906	2,530	+33
	利益率	13.1%	13.1%	+0.0pp
欧州・ロシア・中近東・ インド・アフリカ	売上収益	6,939	8,500	+22
	調整後営業利益	421	640	+52
	利益率	6.1%	7.5%	+1.5pp
中国・アジア・大洋州	売上収益	3,869	4,600	+19
	調整後営業利益	420	410	△ 2
	利益率	10.9%	8.9%	△ 1.9pp



#### 免責条項

本資料に掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などのうち歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。そのため、今後の当社を取り巻く経済環境・事業環境などの変化により、実際の業績が掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などと大きく異なる可能性があります。従いまして、投資に関する決定はご自身のご判断においてなさるようお願いいたします。